



田川地区平和センター

鶴岡市泉町8番57号 TEL 0235-22-1776 FAX 0235-22-1973 URL <https://ta-heiwa.com/>

編集発行
田川地区平和運動推進
労働組合センター教室部



支連 帯援

健康な体づくりに 子ども食堂で活用を

はえぬき100^{kg}を贈る

支援米実行委と
鶴岡協同ファーム

食とみどり、水を守る山形県労働市民会議アジア・アフリカ支援米実行委員会（荒井滋委員長）と鶴岡協同ファーム（鶴岡市高坂、五十嵐一雄社長）は18日、「鶴岡市内で活動することでも食堂で活用して」と、はえぬき100^{kg}を鶴岡市内に奇贈した。

同実行委は長年にわたり減反田などを活用して作った米をアジア、アフリカ圏の途上国へ送る活動に取り組んでいる。近年の物価高騰を受けて昨年から「地域の未来を担う子どもたちからしっかり食事を取ってほしい」と、鶴岡市を通して市内で活動する子ども食堂へ米を贈っている。鶴岡

アジア・アフリカ支援米、鶴岡市子ども食堂に贈呈！
最初は、コメ余りの生産調整田を利用して始め、アジア・アフリカに支援米！

協同ファームはは場を提供することにも、実行委の委託を受けて贈呈用の米作りを行っている。

この日は荒井委員長と小泉信三顧問、五十嵐社長が市役所を訪れ、精米した10^{kg}入りのはえぬき10袋を皆川治市長に手渡した。荒井委員長が「近年の国際情勢を受け、国内でも困窮者が増加している。市内でも子ども食堂の利用者があり、特に未来を担う子どもたちが健康な体をつくり、厳しい冬を乗り越えられるよう米を活用してほしい」とあいさつした。

これを受け、皆川市長は「今夏の猛暑で米作りに苦労する中、子どもたちの健やかな成長のためにたくさん米を頂き、感謝申し上げます。関係者へしっかり渡したい」と謝辞を述べた。

今回奇贈された米は、庄内子ども食堂等地域ネットワークを通じ、鶴岡市内で活動することでも食堂へ配分される。

荘内日報 2023年12月20日 転載

アジア・アフリカ支援米の歴史

カンボジア・マリ共和国等に贈呈

「子ども食堂で活用して」と荒井議長（左端）と五十嵐社長（中央）が鶴岡市へはえぬき100^{kg}を贈呈

平和センター等で構成する「食とみどり、山形県労働会議」は、アジア・アフリカ支援米実行委員会を結成し、支援米の生産と贈呈に取り組んでいます。

この活動は、飽食と言われる日本の食料事情と危機的にある日本農業の現状について理解を深める運動と、世界的な飢餓支援を結びつけ、1997年から「支援米作付け運動」として始めました。

日本でつくったコメを飢餓地帯に対して支援米として送るといってもですが、単に支援するというだけ



でなく、コメ余りのために生産調整を余儀なくされた休耕田を利用してコメ作りをすることによって、日本の水田農業を守るとことを兼ねた一石二鳥の活動として始めました。

支援米を生産する圃場は、鶴岡市民田の五十嵐一雄さんに提供していたです。

当時、世界では毎年、約1億人の子どもの5歳の誕生日を迎えられず亡くなっており、その4分の3がサハラ以南のアフリカと南アジアに集中していました。当初はカンボジア等に送り、現在はマリ共和国に送っています。

2022年の実行委員会で、飢餓で「アジア・アフリカで困っているのは理解できるが、日本でも貧困で困っている子どもたちもいるので、子ども食堂に贈呈しては」と提案があり、22年より、支援米の一部を子ども食堂に贈呈しています。

2023年支援米田植え



《東北労働金庫鶴岡支店》
生活応援バンク **R** りょうきん
鶴岡市末広町1-12
TEL22-3147
労働者のための、ふれ愛バンクです

こくみん共済 coop <全労済>
共済 ショップ 鶴岡
鶴岡市泉町8-73 TEL 23-6100
全国労働者共済生活協同組合連合会

コープは組合員みんなの力で
COOP 生活協同組合 共立社
本部 鶴岡市宝田1-3-23 TEL22-5110